

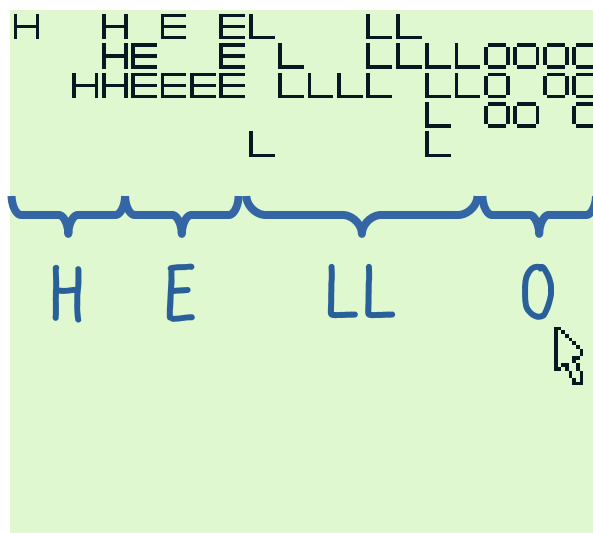
バイナリ生物学GB実装 DaisyOS(仮) v0.1.0

バイナリ生物学に基づいた
独自のデータ構造と状態遷移により、
実行バイナリを生物(単細胞生物)として扱う
システムです。

それにより、実行バイナリが持つ機械語の命令列を、
細胞分裂時の**突然変異による進化で**
目的の形へ作り変える事ができます。
(※現状のGB実装では突然変異は一部分のみ)



細胞分裂時の突然変異体を
意図しないものは間引くことで
目的の形へ進化を導く(品種改良)



【実行バイナリのデータ構造】

フラグ	ビットフィールド(1バイト)
座標	X, Y(各1バイト)
寿命・余命	符号なし整数(各1バイト)
適応度	符号なし整数(1バイト)
タイル番号	文字や記号等の タイルの番号(1バイト)
機械語バイナリ サイズ	符号なし整数(1バイト)
機械語バイナリ	機械語の命令列 (実行バイナリの本体)
機械語バイナリ 取得フラグ	機械語バイナリの各バイトの 取得状況を示すフラグ(1バイト)

現状のGB実装
では、
2命令だけ
の
単純なもの

```
ld a, XX
call set_tile_num
```

「タイル番号を
XXへ変更する」
という命令列。
現状では、
突然変異は
XXの部分のみ。

【実行バイナリの状態遷移】

